

社会は敬語をどう獲得するか？

—マクロ社会言語学的考察—

2016/10/05

東京外国語大学 語学研究所 定例研究会

東京外国語大学総合国際学研究院
特別研究員 柳村 裕

構成

1. 目的と方法
2. これまでの成果
3. 今後の計画

1. 目的と方法

目的

マクロ社会言語学的接近法による、
日本語の敬語の習得・変化過程の記述と理論的考察

- 大規模経年発話資料の分析による個人内での敬語の「加齢変化」の記述
- 敬語使用と話者の社会的属性との関係
- 社会全体で敬語がどのようにして「獲得」されるかをモデル化

岡崎敬語調査

- 国立国語研究所による愛知県岡崎市での大規模経年調査
- 1953年、1972年、2008年の3回
- 敬語行動・敬語意識の実態とその経年変化を解明・把握する

資料

- 短文発話資料と話者の社会属性項目
- 特定の場面を想定し、その場面での敬語行動を尋ねる面接調査
- 調査3回 × 約400人 × 11場面
≒ 12,485発話回答

敬語使用の変化を見るには

- 敬語使用
 - 敬語を使うかどうか
 - どのような表現・形式を使うか：
デスマス体か、ゴザイマス体か
- 「丁寧さの段階付け」により敬語使用の特徴を数量化

丁寧さの段階付け(国語研究所1957、1983)

- 主に発話末の表現に基づき、各発話の丁寧さを3段階に分類
 - 丁寧さ1: ゴザイマス体 (特別丁寧体)
「まっすぐ北へ行って頂くと橋がございます」
 - 丁寧さ2: デスマス体 (敬体、丁寧体)
「あの橋が明代橋です」
 - 丁寧さ3: ダ体 (常体、普通体)
「あの橋が明代橋だ」

2. これまでの成果

発話の丁寧さの分析で分かったこと

- 敬語の「成人後採用」(井上他2016、柳村2014)
 - 話者の加齢に伴い、丁寧さが高くなる
 - 敬語の使用量が増える;より丁寧な形式を使う
- 敬語使用の変化パターンの職業差(柳村2017)
 - 丁寧さの加齢変化パターンは、話者の「職業」によって異なる
 - 特定の職業の話者には成人後採用が見られない

発話の丁寧さの生年(年齢)差 サンプル全体

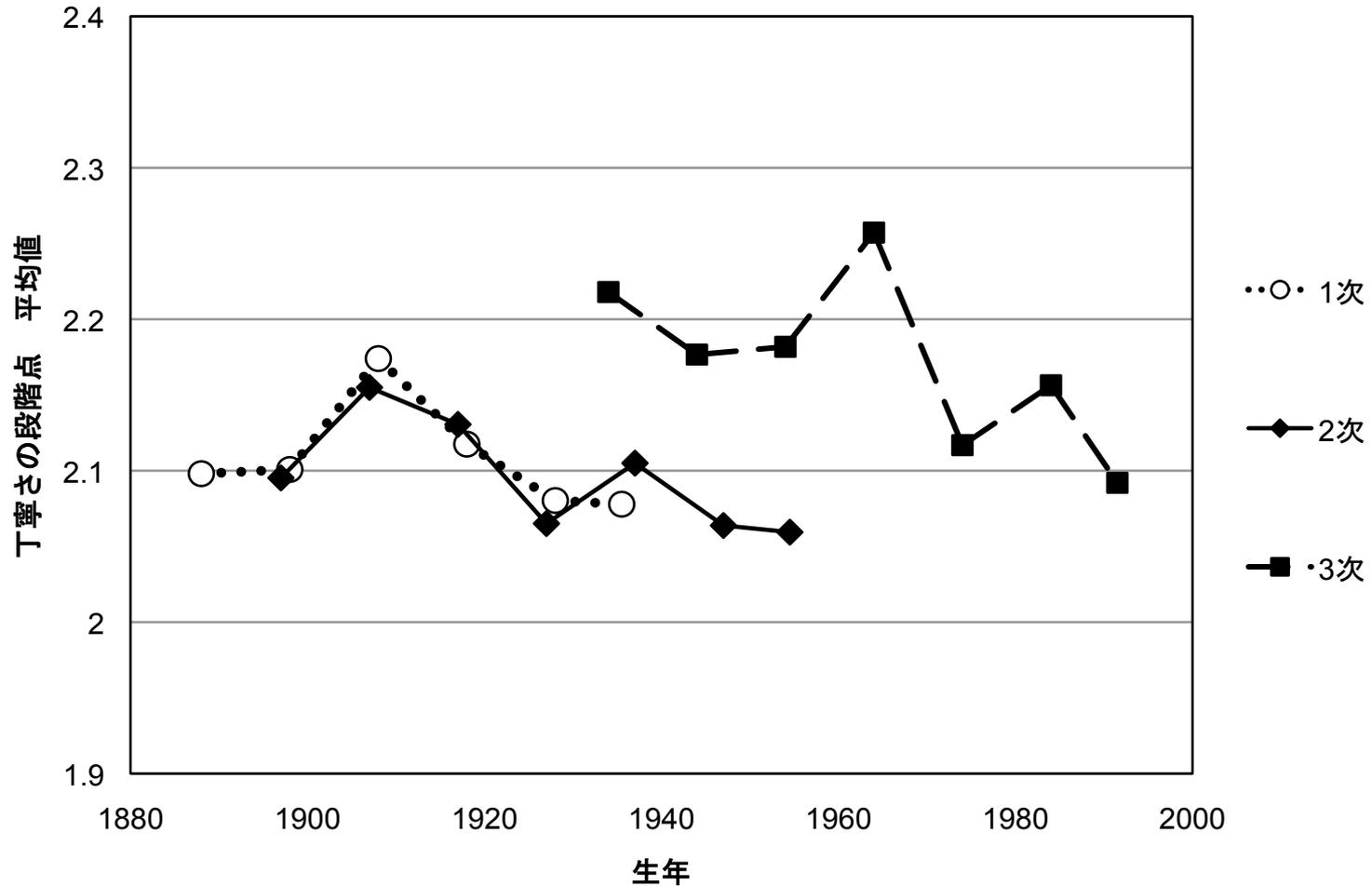
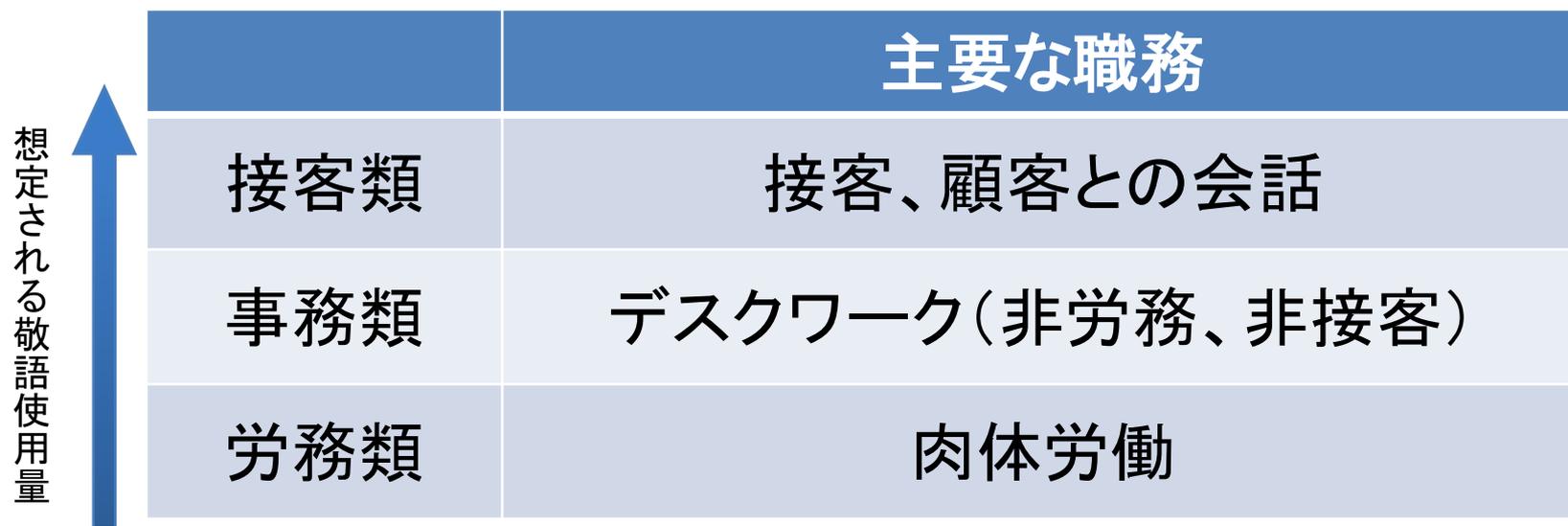


図1 丁寧さの段階点平均値 調査次×生年 サンプル全体

発話の丁寧さの分析：職業ごと

- 「職務中の敬語使用」と発話の丁寧さの関係を検討



| | 主要な職務 |
|-----|-----------------|
| 接客類 | 接客、顧客との会話 |
| 事務類 | デスクワーク(非労務、非接客) |
| 労務類 | 肉体労働 |

- ただし暫定的分類
- 約半数の話者は分類不能などで未分析

発話の丁寧さの生年(年齢)差 接客類

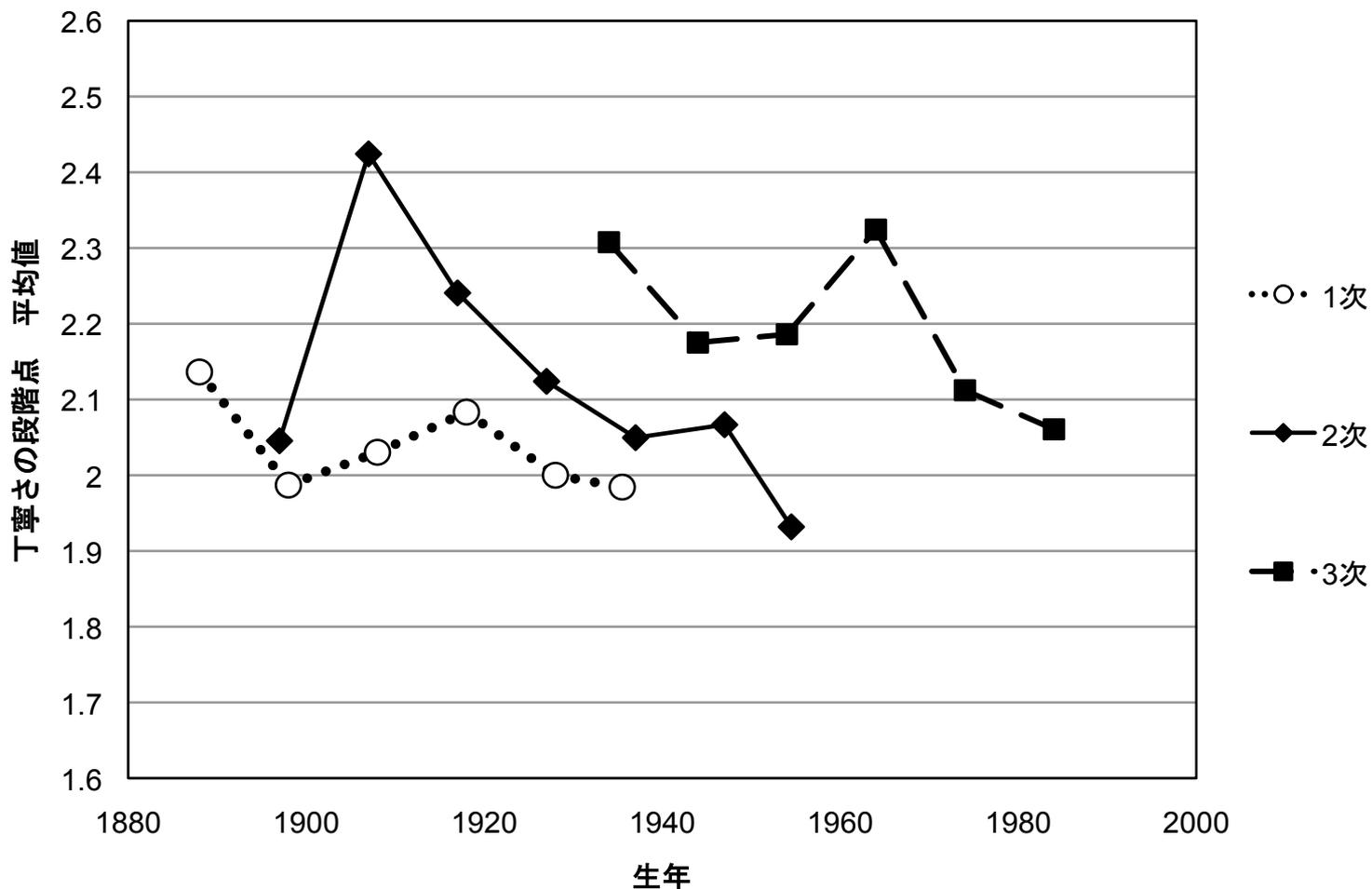


図2 丁寧さの段階点平均値 調査次×生年 接客類

発話の丁寧さの生年(年齢)差 事務類

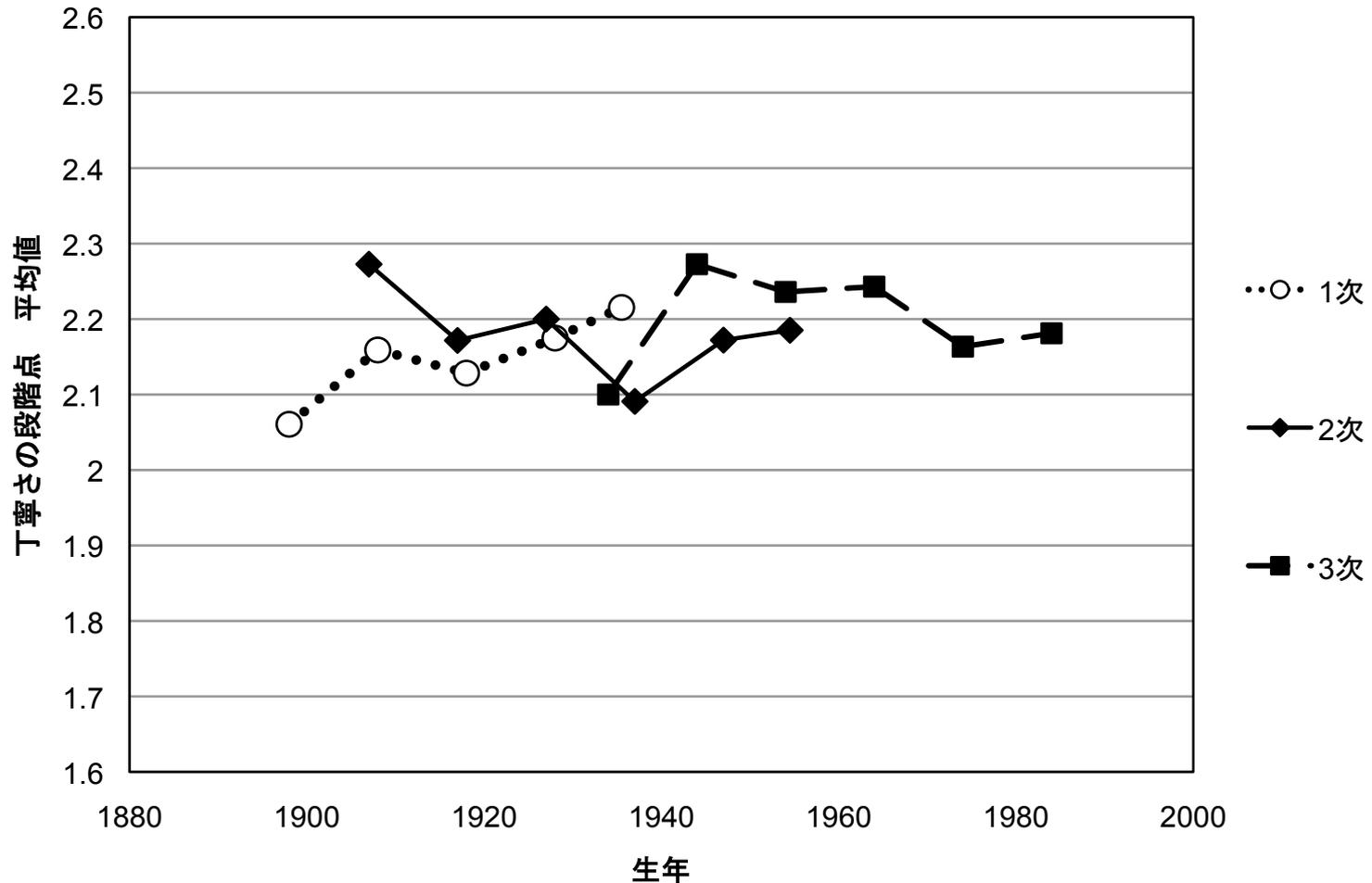


図3 丁寧さの段階点平均値 調査次×生年 事務類

発話の丁寧さの生年(年齢)差 労務類

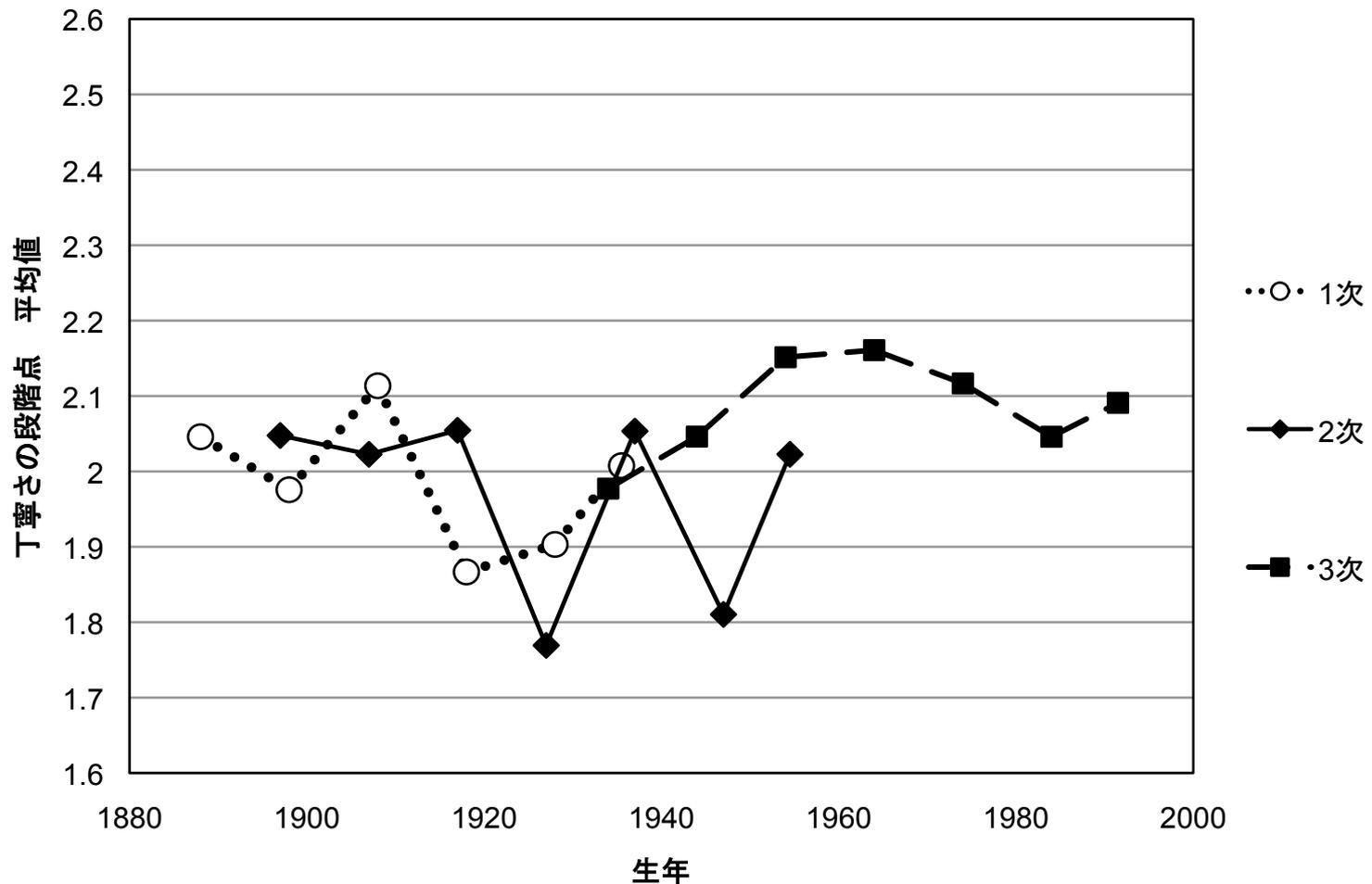


図4 丁寧さの段階点平均値 調査次×生年 労務類

丁寧さの加齢変化パターンの職業差

- 職業が接客類の話者に、成人後採用が最も明瞭に観察される
- 事務類・労務類では明瞭には観察されない
- 接客類と事務類の比較
 - 事務類は若い頃から丁寧;加齢変化は小さい
 - 接客類は若い頃はぞんざい;加齢に伴いより丁寧に

3. 今後の計画

ここまでの結果から浮かび上がる仮説

- 話者の生涯における敬語の習得・変化過程には二つのパターンがある
- どちらに当てはまるかは、職業などの社会的属性で決まる
 - 成人後採用(接客類)
 - 早期採用: 早い時期での習得とその後の不変化
(事務類・労務類)

本研究で取り組む課題

- (1) 敬語使用の変化パターンの探索的検討・記述
- (2) 岡崎敬語調査資料の拡大・再整備
- (3) 敬語の習得・変化と話者属性の関係のモデル化

(1) 敬語使用の変化パターンの 探索的検討・記述

- 話者属性ごとの詳細な記述
 - 成人後採用と早期採用のどちらが観察されるか
 - 他のパターンが見られるか
- 属性ごとおよび複合属性の検討
 - 職業と他属性の相関
- 職業分類の再検討・整備
 - 職業のどの側面が敬語使用にかかわるか

(2) 岡崎敬語調査資料の拡大・再整備

- 追加調査の実施：
過去の岡崎敬語調査と同一内容
- 資料の拡張：
話者数の少ない属性項目の補充
- 岡崎敬語調査の継承と発展

(3) 敬語の習得・変化過程と 話者属性の関係のモデル化

- 個人内での敬語の習得時期と加齢変化
- そのパターンの話者属性による差異
- 社会全体としての敬語の「獲得」:
敬語の習得・変化過程が社会とどう関わるか

参考文献

- 井上史雄・阿部貴人・鑓水兼貴・柳村裕・丁美貞(2016)『敬語表現の成人後採用—岡崎における半世紀の変化—』国立国語研究所「日本語の大規模経年調査に関する総合的研究」報告書.
- 国立国語研究所(1957)『敬語と敬語意識』東京:秀英出版.
- 国立国語研究所(1983)『敬語と敬語意識—岡崎における20年前との比較』東京:三省堂.
- 柳村裕(2014)「ことばの丁寧さの経年変化と社会的要因—岡崎敬語調査から—」『国立国語研究所論集』8:177-196.
- 柳村裕(2017)「話者の職業による敬語使用の差異と変化—岡崎敬語調査資料の分析—」『国立国語研究所論集』第12号掲載予定, 掲載頁未定.